

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	栢・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(周辺整備等)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	1	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	小金谷 幸次			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	H16年に策定された廃棄物処理施設周辺整備事業5か年計画に基づき開始される周辺整備基本計画等策定事業(27年度までの3か年事業)に対し鎌ヶ谷市分の負担金を支出する。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	栢・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合による周辺整備基本計画等策定事業において、構成市として、地域住民との合意に基づいた計画を策定する。
②①に基づく取組み結果	栢・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合において平成25年度に実施された周辺整備基本計画等策定事業に対し、鎌ヶ谷市負担分の負担金を支出した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①栢・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合 ②栢・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	①余熱利用還元施設管理運営効率化、 ②軽井沢遠山地区における景観改善、 ③災害時における飲料水等の確保
②事務事業の概要	廃棄物処理施設周辺の住民に対する環境整備を目的として、還元施設の維持管理や周辺環境の改善等に必要な経費の負担を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成25年4月に、さわやか環境緑地・ふれあい散歩道が開設され、一層の地域活性化が図られる。今後、地域住民及び構成市との合意に基づいた環境衛生組合による周辺整備基本計画による整備を行っていく。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	栢・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合による「さわやかプラザ軽井沢」の建設費償還金、維持管理経費及び施設南側斜面緑地の保全や植栽管理等に負担金を支出した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	余熱利用還元移設利用者数	301,542	315,753	324,207	人	業務取得
	ii	資源化率	21.0	20.9	20.9	%	業務取得
	iii	最終処分率	8.6	8.8	8.4	%	業務取得
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	117,280	141,608	金額(千円)		内容	161,645	
国支出金(千円)			5,252		還元施設建設費償還金		
県支出金(千円)			1,831		緩衝緑地購入費償還金		
市債その他(千円)			134,525		周辺整備費		
一般財源(千円)	117,280	141,608				161,645	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	周辺整備計画については、地域住民及び構成市との調整を図りながら見直しを行う必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	運営の効率化について、たえず検証していくため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	ごみ減量業務に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	小金谷幸次			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	今後も有価物の回収量が増えるよう積極的にPR活動を推進していきたい。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	有価物回収量を増やすため、アンケートを実施し回収量の増加対策の参考資料とする。
②①に基づく取組み結果	平成25年9月に有価物回収運動の普及促進を図るため、チラシを作成し自治会回覧により全戸配布を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	廃棄物の減量をめざし、循環型社会の構築を図る。
②事務事業の概要	ごみに対する市民への啓発及び再資源化の促進を図るため、有価物の集団回収に対して品目、回収量別に応じて奨励金を交付する。また、家庭から出る生ごみを減量化するため、生ごみ処理容器等の普及を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	有価物回収・買い物袋持参推進運動及び生ごみ処理機の導入について、全体的に減少傾向にあるが、循環型社会の構築に向けて今後も市民の意識高揚を図っていく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	市内小学校9校のPTA(出す側)と有価物資源組合(回収側)による有価物の集団回収を行い、市民レベルの存続拡大を図るため、両者に対して品目、回収量別に応じて奨励金を交付した。また、生ごみ処理容器等の購入者に、購入費用の一部について補助金を交付した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	有価物回収量	1,281	1,250	1,236	t	業務取得
	ii	買い物袋の持参運動交換件数	10,512	11,111	10,698	件	業務取得
	iii	生ごみ処理容器補助件数	25	26	35	件	業務取得
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	14,979	14,860	金額(千円)	内容		16,125	
	国支出金(千円)		13,947		有価物回収運動奨励金		
	県支出金(千円)		228		生ごみ処理容器助成金		
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)	14,979	14,860				

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	有価物の回収量、買い物袋の交換件数及び生ごみ処理容器等の補助件数について、全体的に減少傾向にある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民に直接働きかけることでごみの減量化につながる施策であるため、今後もPR活動等を継続する必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由	平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(ごみ処理等)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	小金谷 幸次			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	クリーンセンターしらさぎ建設にあたり、旧沼南町と締結した協定書に基づき、しらさぎに隣接する鎌ヶ谷市域の用地の取得準備を進める。また、購入主体の環境衛生組合に対する負担金を平成26年度予算に計上する。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	しらさぎの建設にあたり、旧沼南町と締結した協定書に基づき、鎌ヶ谷市域の用地を取得するための準備を進める。
②①に基づく取組み結果	用地取得については、登記手続きの時期の遅れにより平成26年度予算計上を見送った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	①一般廃棄物(ごみ)を排出する市民等 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	①「資源になるもの」等の再資源化による最終処分量の減少を図る。 ②ごみの適正処理を図る。
②事務事業の概要	構成団体の地区内(柏市沼南地区・鎌ヶ谷市全域)で排出されたごみを適正処理するために建設された施設の建設償還金及び施設運転管理等の経費を負担する。		
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	ごみ焼却施設の老朽化による延命化対策が必要となる。最終処分場確保の逼迫及び資源の有効活用のため循環型社会形成の取組みが求められている。		

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	ごみ処理費用及び処理施設建設費償還金に係る負担金を支出した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	算定根拠
	i	再資源化量	6,675	6,579	6,676	t 業務取得
	ii	最終処分量	2,865	2,809	2,691	t 業務取得
	iii					
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算
事業費(千円)	1,324,326	1,246,562	金額(千円)	内容		1,178,504
国支出金(千円)			566,199	ごみ処理費負担金		
県支出金(千円)			503,913	共同化処理費負担金		
市債その他(千円)			176,450	ごみ処理施設償還金		
一般財源(千円)	1,324,326	1,246,562				1,178,504

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	今後、ごみ焼却施設の老朽化による延命化対策が必要となる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	不燃ごみ処理方法及び資源化処理方法についての検討が必要となる。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由						
	平成26年度への繰越額(単位:千円)					